



# 東京多摩プロバスニュース

第 56 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2014. 9. 3.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 多摩の地域文化を育てよう

第 11 期 定期総会、 第 121 回 定例会

日 時 : 平成 26 年 7 月 2 日 (水) 午後 1 時 30 分より

場 所 : 京王クラブ 2F 会議室

出席者 : 30 名(会員数 36 名)

第 122 回 定例会

日 時 : 平成 26 年 8 月 6 日 (水) 午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 27 名(会員数 36 名)

### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

### ◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

年度はじめに当たって

山田正司会長

風薫る平成 16 年 5 月に誕生した当クラブは、本年度をもってめでたく 11 年目に入りました、節目の 10 周年記念式典・祝賀会では、各方面の方々から 10 年間の成果に多大な評価をいただきました。今後もこのよき成果を継承しつつ更なる発展を期するところがあります。その想いとして本年度のスローガンを「多摩の地域文化を育てよう」と掲げました。地域文化は本来時間的経過によって醸成されるものですが、明治 22 年の多摩村誕生以来、村から町、市制へと移行する中、戦後 20 年目の多摩ニュータウン開発による人口急増(以前の約 6 倍)は、地域文化に多大な変質を迫りました。もとより先人達の築いた文化はその根底にあり継承されていることは確実です。当クラブメンバーも多くは多摩市以外からの移住者ですが、一様に今後はこの多摩の地を終の住処と定めて新たなふるさとづくりを心掛けています。メンバーの多彩なキャリアと個性、人格はすでに文化人と自負しています。当クラブのあり様が地域文化(コミュニティーカルチャー)であるといえましょう。すべての会員が明るく楽しいプロバスライフを送れる年度でありたいと強く願っております。



初秋を装うけやし並木(多摩市落けやしき通り)

先年度の全員で取り組んだ郷土かるたづくりは、その成果と同様に作成過程も意義のある文化事業であったと思っています。今年度は多摩プロバスかるたの普及が課題となります。幸いにも年度早々に多摩市教育委員会の計らいによる市内全小中学校長会で初のお披露目ができ、そして翌日には早くも小学校 2 校から 3 年生の社会科学習に活用したいとの要請を受けました。かるたの内容も学校教材になる証を得たこととなります。今後とも当クラブの活動が多摩の地域文化づくりに役立つことを切に願うものです。

第11期定期総会(平成26年度)が7月2日(水)午後1時30分～3時、京王クラブ2F会議室で開催された。

増山敏夫会長の開会挨拶後、北村克彦幹事の司会で議長に関根正敏会員、書記に鈴木泰弘会員を選出。議事録署名人に増山会長・関根議長並びに古澤靖雄会員が選任された。次いで、関根議長が会則11条3項により総会成立を確認(議決権所有会員36名、出席30名、委任状4名)し、議長の議事進行による審議がなされ、第1号議案から第6号議案まですべて異議なく承認された。以下要約して報告する。



## 第1号議案 平成25年度(第10期)活動報告

### 1. 総括報告

増山敏夫会長

平成25年度活動方針として6つのテーマを掲げ活動した。中でも今年度最大のテーマは、1)創立10周年記念事業であったが、平成23年度から企画PJを立ち上げ準備を進め、企画通りの記念事業を完遂できた。記念式典及び祝賀会を平成26年5月16日に来賓多数の参加を得、多摩アカデミーヒルズにて挙行。記念事業として、①市民企画講座2回、②多摩プロバスかるた作成、③10周年記念誌発行、④記念講演「多摩NTの建設に関わって」等多くの行事を実現できた。また、2)定例会の活性化と充実 3)多摩市教育委員会のESDプログラムへの支援活動 4)近隣プロバスクラブ等との交流活動の3テーマは予想以上の成果を上げ、5)サークル活動の活性化については低調なところもあったが、新たに2つのサークルが発足今後に期待。6)委員会構成見直しについては、次年度の検討課題とした。

### 2. 対外交流活動報告

山田正司副会長

(1)全日本プロバス協議会の幹事に2名派遣。第3回関東ブロック交流会(2月)に16名参加。  
(2)近隣3PC交流では、八王子PCの第18回生涯学習サロン開・閉講式に出席。サークル活動にはゴルフ大会2回、囲碁交流1回の交流参加。  
(3)東京多摩RCとは、忘年会および創立45周年記念式典に出席。第9回多摩市中学生俳句大会では応募作品の選考に全面協力。表彰式で、増山会長が当クラブ会長賞を授与。

### 3. 理事会報告

北村克彦幹事

(1)定例理事会：毎月最終水曜日に開催  
(2)第11期への準備として、①次期理事候補推薦のための有識者会議・推薦委員会の開催②次期委員会委員ドラフト会議の開催 ③定期総会議案書準備、並びに引き継ぎのための新旧合同理事会の開催 4回。

### 4. 委員会活動報告

#### 1) 総務委員会

神谷真一委員長

- ① 会員の異動 入会3名 退会2名  
6月末現在会員数36名(内休会2名)、会友6名
- ② 定例会において、会員による卓話5回、外部講師に

よる講話4回、昼食座談会1回を開催

#### 2) 研修・親睦委員会

上田清委員長

- ① 懇親会を京王クラブにて開催(H25/7)
- ② 昼食会を「赤坂飯店」にて開催(H25/9)
- ③ 社会見学会「相模原市立博物館・宇宙航空研究所」(H25/10) ④ 紅葉の御岳山ハイキング(H25/11)
- ⑤ 忘年会 京王クラブにて開催(H25/12)
- ⑥ 花見会・京王プラザホテルにて会食(H26/4)

#### 3) 地域奉仕委員会

大澤亘委員長

- ① 創立10周年記念事業として、市民企画講座を2回開催。テーマ「首都直下型地震とそれを取り巻く環太平洋地殻変動」及び「温暖化と異常気象」
- ② ESDへの協力 イ) そろばん教室：多摩第二小学校(H26/3) ロ) 礼法講座：多摩中学校(H26/6)
- ③ 環境問題への取組み：「マイツリー計画」に賛助寄付。
- ④ 伝統文化サロン：H24/2より9回実施。延べ130名の参加を得た。

#### 4) 広報委員会

平田哲郎委員長

- ① 東京多摩プロバスニュースの定期的発行6回
- ② 創立10周年記念事業として、記念式典でのプレゼンテーション「10年の歩み」の編集作成、参列者へのレジュメ及びプロバスニュース第54号の印刷・配布、祝賀会での「活動状況のビデオ」の編集作成、「創立10周年記念誌」の編集作成
- ③ ホームページは、隔月で更新・管理。アクセス数は月平均100件を超えた

#### 5. サークル活動

##### ① 俳句サークル「銚句会」

毎月第2金曜日に開催。会員14名。多摩市の全中学参加の俳句大会(主催：東京多摩RC)に協賛して、選句などのお手伝いもした。

##### ② 歌を楽しむサークル

歌を楽しむ仲間15名で発足(H25/8)、月一回の開催。

#### 第2号議案 平成25年度会計決算

藤崎喬子会計

#### 第3号議案 平成25年度監査報告

中村昭夫監査

#### 第4号議案 平成26年度 理事選出



新任の理事：左から稲田広報委員長・西村幹事・神谷副会長・山田会長・森川地域奉仕委員長・倉賀野総務委員長・藤崎会計・鈴木研修親睦委員長・増山監査 各位

会長

山田正司

副会長(会長エレクト)

神谷真一

◇◇◇ 第11期定期総会(つづき) ◇◇◇

幹事 西村政晃  
 会計 藤 寄 喬 子  
 総務委員会委員長 倉賀野武士  
 研修・親睦委員会委員長 鈴木達夫  
 地域奉仕委員会委員長 森川 静 子  
 広報委員会委員長 稲 田 興

第5号議案 平成26年度(第11期)活動計画

1. 基本目標と活動方針 山田正司会長

<スローガン>「多摩の地域文化を育てよう」

(1) 基本目標:プロバスライフを大いに楽しみながら会員相互にその個性を認め合い、地域独自の文化(コミュニティーカルチャー)創造に努める。

(2) 活動方針

- ① 定例会の活性化を当クラブの基本姿勢として継続させる。
- ② わがまち多摩の更なる理解を通してふるさと意識を高め、クラブ内はもとより他プロバスクラブとの交流も深める。
- ③ 会員のキャリアと見識が地域独自の文化活動として生かされるようクラブ全体でバックアップし広報する。
- ④ 多摩市の進める ESD 活動への積極的支援としてその具体化に努める。
- ⑤ クラブ発足11年目の節目として、さらなる発展を目指しての課題整理や望ましい目標等を探る。

2. 委員会の活動計画

1) 総務委員会 倉賀野武士委員長

当クラブの運営に関する庶務的、調整的事項を担当し、併せて各委員会の相互連携を図るため次の活動を行う。

- ① 定例会の開催 ② 講話・卓話・座談会
- ③ 委員会活動の改善等の検討

2) 研修・親睦委員会 鈴木達夫委員長

会員の自己研鑽と相互理解を図ることを目的として、次の活動計画を推進する。

- ① 研修計画;ウォーキング・施設等の社会見学・研修旅行・その他 陶芸教室など
- ② 親睦計画;お花見・親睦会(昼食会・懇親会・忘年会)・他プロバス間との交流

3) 地域奉仕委員会 森川静子委員長

多摩市が推進するESDに協力してその具体化に努力する。また、関戸公民館との共催による市民企画講座の実現を図るほか、地域奉仕活動拡充の方策として、他団体との協働による取組みを実施する。

- ① 多摩市ESDへの積極的協力 ② 市民企画講座の実施
- ③ 他団体との協働による地域奉仕活動 ④ 「多摩プロバスかるた」の配布と活用 ⑤ 市内の各施設への慰労訪問と奉仕 ⑥ 会員間の啓発活動とそれを活かした実践と奉仕

4) 広報委員会 稲田興委員長

定期的に会報を発行、並びにクラブのホームページ運営を中心に、広報面での諸活動を行う。会員相互の交流を情報面で支援し、クラブ内活動の活性化を図ると共に、外部に向けて当クラブの活動を積極的に発信していく。

第6号議案 平成26年度会計予算 藤寄喬子会計 以上



7月2日(水)総会・定例会後、京王クラブで恒例の懇親会を開催。東京多摩RCから小林会長はじめ3名の来賓を迎え、総勢32名。この懇親会は前役員並びに創立10周年事業活動を含めた慰労会でもあり、和洋折衷料理と各種の酒を嗜み、ご自慢のカラオケなどで盛り上がった会となりました。(鈴木達夫研修・親睦委員長記)

◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

1. 幹事報告 西村政晃幹事

(1) 全日本プロバス協議会

第6回総会(横浜大会)開催案内 平成26年11月23日(水)

総会:13:00 神奈川県民ホール(小ホール)

懇親会:17:00 萬珍楼(横浜中華街) 参加費1万円

(2) 7月理事会(7/30)報告

- ① 「多摩プロバスかるた普及プロジェクト」(仮称)の発足を決定
- ② 「文書保管要領」の一部見直し改定し内規とする

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会 倉賀野武士委員長

「卓話・講話」の年度計画を策定中であるが、その中で

多摩市阿部市長に11月定例会時「健幸都市・多摩をめざして」の講話を確約できた。

2.2. 地域奉仕委員会 森川静子委員長

(1) 多摩カルタの普及活動

- ① 多摩市小中学校長会(7/9)にて山田会長がPR。各学校にカルタを一部ずつ27部寄贈
  - ② 多摩ニュータウン・まちづくり専門家会議(7/17)にて山田会長がPR、カルタ7部有償配布
- (2) 多摩市社会福祉協議会と情報交換(7/24)

2.3. 広報委員会 稲田興委員長

7月25日(水)ホームページを更新。プロバスニュース第56号を9月3日(水)定例会時発行。

◇◇◇ 卓 話 ◇◇◇

わが人生を語る

私は 75 年前に山梨県の早川町に生まれました。50 年前は人口も 8 千人ぐらいと聞いております。現在は 1,072 人(7 月 1 日)と町としては、日本一人口の少ない町です。東京より中央道を走り、早川町まで 2 時間 30 分です。

秋山正仁会員



高校卒業後は実家の近くでテレビや冷蔵庫、洗濯機等の家電商を営み一時は繁盛していましたが、多忙で気が付いた時には肺結核と診断され入院しました。入院 6 か月後回復に向かい安静期間中に近くの自動車教習所に通い実地試験に合格、退院 1 か月後に筆記試験にも合格し、昭和 37 年 1 月に運転免許証をいただきました。これも皆々様の激励の賜物と感謝しております。

23 歳の春、全てを弟に託して上京いたしました。新聞の広告にて就職したのが、東電通、現ミライト。電気と通信工事の準大手です。21 年間お世話になりました。特に私の出身は山梨県ですので受注した工事を任せられ、長かったのが中央道笹子トンネルの電気工事でした。

昭和 47 年多摩ニュータウンの永山団地に入居し、UR の鶴牧分譲住宅や多摩郵便局の工事を担当していた為、自

宅と現場が近いので自治会活動に参加しておりました。

当時は電車もなくバスの本数も少なく、幼稚園の入園申込書もらうために徹夜で並ぶなどで、ノイローゼでの自殺者もあり、心配していた一人です。なんとかしようと、先輩の千里ニュータウンの役員に相談したところ、先ずは色々なサークルを自治会で立ち上げ育成するしかない聞き、囲碁や将棋、カラオケ、つり、写真、書道等々同好会の育成を図りました。

昭和 57 年 4 月、43 歳の時多摩市議会議員の候補にならないかと先輩たちに勧められましたが、3 人の子供の父であり給与のことを考えると、とてとても無理と 1 年間お断りし続けましたが、他にいないとのことで決意して立候補をいたしました。5 期 20 年間は、季節感もなく、あっという間に過ぎ去りました。一般質問も 518 回行い実現された項目も数多くあります。行革のことでは、朝日新聞、読売新聞に取り上げられました。

現在では、永山 6 丁目で電気工事業を息子と一緒にしております。また、多摩市山梨県人会の会長や、中高の同窓会の世話人等多忙な毎日を過ごしております。人生の総仕上げとは定年もなく引退もなく卒業もなく去って去らず日日感謝いっぱいです。

◇◇◇ 多摩プロバスかるた ◇◇◇

1. 多摩プロバスかるたの普及活動 山田正司会長

昨年度のかるたづくりは、クラブ創立 10 周年の記念事業として会員の総力が結集され、無事所期の目的を達成することができました。今年度はこの成果を「郷土かるた」として、地元多摩市のコミュニティー文化を育てる役割を

考えであります。皮切りは多摩ニュータウンに多くの賃貸住宅を有する UR 都市機構東日本賃貸住宅本部での PR 活動から始まりました。6 月 27 日(金)に本部長以下

下役職 22 名、若手 35 名の職員に、かるたの紹介と「多摩 NT 設計・建設と再生—市民の立場から」と題して講演を行いました。会場にはかるた原画も展示しました。熱心な質疑を通して、我々市民のふるさと意識と、ニュータウン再生への熱い想いは十分に伝わったことを実感しました。

次に多摩市教育委員会での 7 月 9 日(水)の校長会において、多摩プロバスかるたの宣伝と、全 27 校へ 1 セットずつ進呈しました。説明時間や 2 名参加(大澤会員と私)の制約はありましたが、普及活動としては大変効率の良いスタートとなりました。さらに翌日には早々に、北諏訪と多摩第一の 2 小学校からそれぞれ 8 及び 6 セットの追加要請が

あり対応しました。小学 3 年生の社会科学習に活用したいとのことでさらに意を強くしました。

2. 各学校でのカルタ大会 中村昭夫会員

10 周年記念で作成した多摩プロバスかるたは教育委員会経由で「市内の学校長会」で紹介する機会が与えられ、各市内小中学校に紹介できた。これより先に東愛宕中学校校長より教材として使いたいとの要望が出てカルタ 6 組を提供した。早速 1 年生の授業でカルタ大会が開催され、山田会長以下 3 人が見学に伺った。授業では生徒たちはカルタ取りに熱中しカルタの内容まで踏み込むことができなかったが、同校千葉校長よりカルタ



愛宕中学校の多摩かるた大会

の一つ一つの内容についても生徒たちに解からせるような工夫をしたいとのコメントをいただきました。

学校長会が終わった直後に、多摩第一小学校・北諏訪小学校の 2 校から 3 年生の教材にと要望がありましたが、他の学校へも教材として使ってもらえるように、プロバス会員のアプローチをお願いしたい。

◆◆◆ 委員会活動 ◆◆◆

1. 出前講座「江戸しぐさ」

滝川道子会員

多摩中学校支援地域本部事業の「学校の求めに応じた教育活動支援」に基づき、過日、多摩市教育委員会から依頼があり、6月27日、中学一年生・PTA・先生方、約200名の皆様に「して気持ちがいい／見て気持ちがいい／されて気持ちがいい／江戸しぐさ」のテーマで講演をさせていただきました。



「江戸しぐさ」が創り出した豊かで平和な社会。人間と書いて「じんかん」と読ませた江戸時代、そこには人と人との間には間合いが大切であり、江戸しぐさは上に立つ者の哲学であること。

○「しぐさ」は「思草」

○皆違って当たり前—尊異論

○どうして「挨拶」は必要なの

(あいさつしぐさ)には日常的な言葉

お早うございます。こんにちは。有り難うございます。等々の意味とおもいやりの心を！

初めて聞く「江戸しぐさ」の話に生徒の皆様一生懸命に聞いて下さり、PTAのお母さん方も「あっという間の時間でした。もっと聞きたかった」との感想を。大勢の先生方が周りで真剣に聞いて下さっていた姿が印象的でした。

2. 桜ヶ丘公園ゲンジボタル観察会 村上伸茲会員

6月25日19時～、観察会を会員有志11名で実行した。鈴木さんの事前調査(数日前より飛翔数が増えている、前夜に降雨がある、当日は湿度が高いことなど)によりホタル観察には、好条件がそろっているとのことこの夜の観察が決まった。

清少納言は、枕草子の中で次のように書いている。「夏は夜。月のころはさらなり。やみもなほ、蛍の多く飛びちがいたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし」。

この公園のゲンジボタルも、せせらぎに沿って、数匹がほのかに光り流れるように飛翔する様は、日中の暑さを忘れ癒される。



ただし、数名の会員はおまけをもらった。それは、天地がひっくりかえるような、傘の役にたたないスコールの洗札である。あの飛翔していたホタルたちは、どこで雨宿りをしているかなと思いつつ家路についた。

3. 藩校サミットに参加して 北村克彦会員

7月5日(土)埼玉県行田市で開催された、第12回全国藩校サミット行田大会に当クラブから、山田・森川・北村の3会員が参加した。当クラブの創立10周年記念式典・祝賀会にお招きした埼玉浮き城プロバスクラブの小山博会長からのお誘いを受けたのを機に、藩校サミットとは何か興味もあつたし、何よりも、「埼玉浮き城」というちょっと変わった名前をもつプロバスクラブの地元、行田市とはどんな所かを知るいいチャンスでもあつた。

「藩校教育の理念を今に」というスローガンの下、全国から48地区のお殿様が集合。第1部の講演会での「国語教育の柱—漢字・古典・短文作り」は大変興味深いものであつた。



◆◆◆ 新会員紹介 ◆◆◆

青木ひとみ会員



青木ひとみ会員(芸名・橘弥)は現在多摩市文化団体連合(文団連)の団体会員の一つである多摩市日本舞踊連盟の会長であり、その文団連の副理事長をつとめられている。3歳より母上の花柳三彌に手ほどきを受け16歳で花柳流名取、18歳で師範、多摩市において花柳橘弥舞踊研究所を主宰、数々の古典芸能に関する啓発活動家である。18歳の時女流長唄の第一人者であった今藤文子師に入門、25歳で今藤長美弥の名をお持ちである。その他多摩市文化振興財団理事、多摩市国際交流センター運営委員、多摩市情報公開運営審議会委員等をつとめられた。現在学びあい育ちあい推進審議会委員でもある。近々9月23日(火)には三宅坂の国立劇場にて第50回記念推薦名流舞踊大会にご出演「義太夫・二人三番叟」を踊られる予定。また同プログラムの序においてご自身が代表である多摩市古典芸能こども教室の方達の出演もあるとのこと、大変お忙しい御仁です。ご趣味は乗馬とか。

(堀内陽二会員記)



## 私の一品



### 「対談集 *Choose Life*」と「守り刀」 滝川益男会員

20世紀最大の歴史家アーノルド・トインビー博士と、創価学会池田大作会長との対談が、1972年と73年の二度にわたりロンドンで行われました。激動する国際情勢、核の脅威、環境破壊、教育の荒廃、生命倫理の危機等々、喫緊の諸問題をめぐって延べ40時間語り合われたこの対談は、21世紀に人類が生きるべき道を示唆する重書として3年後の1976年、日英両語で同時発刊されました(英語版は*Choose Life*(『生への選択』)の題名で英国・オックスフォード大学出版局から、日本語版は『21世紀への対話』と題して文芸春秋社から発刊)。

当時私は32歳。幸いにもこの翻訳・編集作業に参加させていただき、対談集発刊の折には、過大な言葉ですが、「君の翻訳の努力でこの一書なる」(1976・5・1)の献辞入りで、オックスフォード版*Choose Life*(『生への選択』)を賜りました(写真下)。以来、翻訳は私にとって生涯の仕事となりました。



また、この翻訳作業の折に「守り刀」を賜りました。銘は「長光」。わが家には、紀州藩主奥方村のお毒見役だった曾祖父・音井久次郎忠勝(明治維新で滝川善兵衛と改名)所持の銘刀「忠吉」がありましたが、大刀・中刀は戦争で焼失し、残ったのは小刀と鎧通しだけでしたから、この「守り刀」は新たな家宝となりました(写真右)。以上の二点が「私の一品」です。



さて、二人の対談の内容を、以下、ほんの一部ですが、紹介します。

若き池田会長がたずねます——「トインビー博士の『座右の銘』は何でしょうか?」。高齢のトインビー博士が即座に応じます——「ラボレムス(laboremus)です。ラテン語で、さあ仕事を続けよう、の意味です」と。続けてその由来を博士はこう語りました。

——西暦211年、温暖な南国リビア生まれのローマ皇帝セプテミウス・セヴェルスは、厳寒の地・ブリタニア

へ遠征の途上にありました。皇帝は自らが率いる軍隊に、日々モットーを与えるのが常でした。しかし、すでに年老いた皇帝は重い病に罹っていました。それでも彼は、自分のなすべき仕事を最後まで続けました。そして、まさに死なんとするその日に与えたモットーが、この「ラボレムス」(さあ仕事を続けよう)でした……セヴェルス皇帝最後の日のこの一語を、私は自分の「座右の銘」にしています。(写真撮影 神谷真一会員)



## ハッピーバースデー



### 1.7月誕生日を迎えられました!



左から鈴木泰弘・滝川道子・西村政晃各会員

### 2.8月誕生日を迎えられました!



左から瀬尾日出男・高村弘毅・阪東照子・上田清各会員



## 編集後記



◇一年が2/3も過ぎ去り9月を迎えた。月日は早い。  
◇プロバスかるたが、やがて市民にも広がり「多摩プロバスクラブが作ったそうだ」と言われるようになれば嬉しい。  
◇行田の藩校サミット参加では、いたく感銘を受けたという。私も漢字に関しテレビを見るにつけ情けなく、遅きに失する感あるが、格調高い藩校を見習わねばならぬと思う。  
◇8月誕生日は特筆したいことがある。6日の広島原爆投下の日が瀬尾会員、15日の終戦記念日が高村会員、12日の同日生まれが上田会員と阪東で計4名。ところで学徒動員の帰り、今の西新宿で空襲にあい、低空飛行の機銃掃射を受け、隣壕の男子は即死、女子は生き残った。当時18歳の私は、命の尊さを語りつがねばならぬ体験をしている。穏やかな笑顔と歌声で、カードや贈物をいただいたとき、この当たり前の幸を、すべての人に to you と強く思った。  
◇食欲の秋、読書の秋、自分にてらしてご自愛を! ◇西行法師の「おしなべて物を思わぬ人にさえ、心を作る秋の初風」の歌によせ、パスカルの「考える葦」の思想をもち、この秋も広報の役目を果して行きたい。(広報委員 阪東照子記)